教育新宝島

7月特典

向山洋一 教育資料

No 20

2025 JUL.

1989.11.28

「パイナップル」の授業

教材研究とはモノを準備することである

（４年社会科「パイナップル」の授業 1989）

本資料について

今号の特典資料は、

⑴4年向山学級「やしの実」の授業授業音声・文字起こし
⑵4年向山学級「パイナップル」の授業授業音声・文字起こし

の二本立てである。

一．教材研究とはモノを準備すること

1989年11月。

向山洋一氏は第23回九州小学校社会科研究協議会で講演するため筑波大付属小学校の有田和正氏と共に沖縄を訪れた。

講演が終わって、「やしの実」と「パイナップル」を購入する。

向山氏は、校内研で「さまざまな土地のくらし」の授業をすることになってきた。

モノを準備すること

これが教材研究の基本だからである。

二．名人による名人の授業の追試

帰京した向山氏は、「やしの実」と「パイナップル」を使って授業を行う。

これらは、有田和正氏の「パイナップル」の授業の「追試」であった。

向山氏も有田氏も日本教育史に残る授業名人だと言っていいだろう。

名人が、名人の授業を「追試」すると何が見えてくるだろうか。

⑴授業の核心にイッキに迫る導入をどのように仕組むか。
⑵自己学習力の基礎となる学習技能をどう習得させるのか。
⑶子どもたちから多様な意見を引き出すための具体的な手立ては何か。
⑷有田学級や向山学級のような追求する子どもたちを育てるための極意とは……。

三．本冊子収録の向山実物資料

本冊子には、以下の向山実物資料が収録されている。

⑴向山洋一「パイナップルの授業（文字起こし）」『教育トークライン1993年7月号』東京教育技術研究所、p.26-37
⑵向山洋一「社会科研究覚え書き（校内研究資料）」1989年、雪谷小学校
向山実物資料A13-33-01
⑶4年児童作文「パイナップルとやしの実」1989年、雪谷小学校
向山実物資料A13-12-01-12
⑷向山洋一「やしの実の授業（文字起こし）」1989年、東京教育技術研究所向山実物資料A04-163-01、他

解説は井上好文氏である。

「パイナップルの授業」特典音声
https://vimeo.com/1091719594/44e30990a8

「やしの実の授業」特典音声
https://vimeo.com/1091720619/e1f4563fec

●『教室ツーウェイ1990年2月号』明治図書、p.3

’89年秋、編集長、知的生産最前線(47)

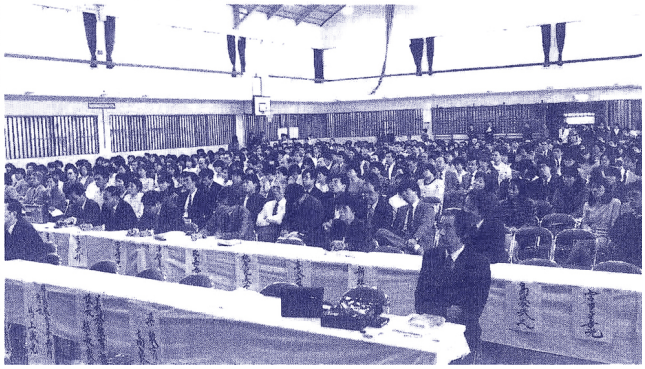
11月18日(土)～12月5日(火)―新潟～沖縄～千葉―

◀11月23日(木)
「第23回九州小学校社会科研究協議会」沖縄大会で講演する。那覇市立城西小学校は、沖縄の名門校である。「守礼の門」の隣にある。授業を見て、講演をして、「守礼の門」も見ず帰京した1日であった。

▶「教育てい談・教材開発と教育技術法則化運動」と題し、コーディネイターに樋口編集長を迎え、2時間15分にわたって話し合った。この内容は月刊『社会科教育』で紹介される予定だという。開始前、どちらが先に講演するかジャンケンで決めた。勝って編集長が先に話した。

◀有田先生と授業を参観する。忙しい2人がそろっての参観はめずらしい光景である。

▼参加者は600名を超えていた。これだけの人数はめずらしいことであるという。



●向山洋一『教育トークライン1993年7月号』東京教育技術研究所、p.26-37

実録！向山洋一の授業　第四回
「パイナップル」――社会科四年の授業――

『みんなとお勉強したくてですね、高いお金出して、先生買ってきた』

「えーっ。なに、なに？」

「おー！」

『何ですか』

「パイナップル」

『第一問は何と聞いたらいいですか』

「どういうふうに（パイナップルの実のつき方は）なっているか」

『はい、佐藤君がいいことを言ってくれた。もう一回大きい声で』

「どういうふうに（パイナップルの実のつき方は）なっているか」

社　会／一九八九年十一月二十八日
東京都大田区立雪谷小学校四年
授業者／向山　洋一
〔注〕／一　文中『　』は教師の発言
二　文中「　」は児童の発言
三　文中《　》は引用
四　児童の氏名は仮名です
テープ起こし／五十嵐　弘幸
（北海道千歳市立青葉中学校）
構　成／菅澤　孝年
（東京都品川区立大原小学校）

『それを、どうしたら良いですか』
「絵に書く」

『パイナップルはどうなっているか絵に書きなさい。パイナップルのそばまで来てちょっと確かめてみたい人、調べてみたい人は、見に来ていいです』

「ああ、いいにおい」
「ここに切った跡がある」
「やっぱ、ここ、つるみたいにこうなっているんだ」
「すいかみたいにこうなっているんだ」
「ここ、チクチクしている」
「葉っぱ固い」
「重い。重量感たっぷり」
「こうしてさわってごらん。痛くないから」
「まだよく熟していないんじゃない」
「なんか、これ黄色い方が甘みがあるとかなんとか言ってるけど…」
「先生、木の形どうでもいい？」

『自分が、そう思うのでいいよ。自分の想像ですからね』
「わかった。ここが、こうなっているんだ」
「切り口見ればわかるよ」
「木ではないよな」
「ウィンナーみたいになってる」
「これが、こうついてる。でもって一番下の方が栄養が下までまわらないの。一番上が甘くて、一番下がただの水」

『はい。今ね、前で、佐藤君なんかが話してて、一種類じゃなくて、こういうふうにも考えられるな、というのがありましたら、それはそういうふうに書いておいていいです。何種類書いてもいいです』

「先生、葉っぱのところにちゃんとヒントがついていたよ」
『なるほど』
「これ見て。木の上だよ。木の上だよ。見なくてもわかってる。内緒だよ」

『じゃあ、鈴木さん、黒板に書いてみなさい。それから、佐藤君、書いてください』

「（参考書に）載ってる。載ってる」

『佐藤君、書いてください。上田君、書いてください。』（子どもたち次々に絵を書く）

「ほら、先生、（参考書の資料に）あった」

『ちょっと、よしなさい。しまいなさい』

「見たら意味ねえよ」

『自分の名前も書いときなさいね』

『上田君の絵は…』

「土に埋まってる」

『埋まってる。伊藤君は…。はい、まわりの人、ちょっと座って。』

「土にちょっと埋まっているんだけど、上にちょっと出ている」

『上に出ている。佐藤君のが…』

「こう、つながっているんだけど…」

『つながってね、たくさんこういうふうにできている。能勢さんのが…』

「えー、ちがう。逆さ」

『逆さになって、こう、土の中に入っている。北野君』

「葉っぱのぼうぼうの中に…」

『葉っぱのぼうぼうの中に、こう、植わっている。鈴木さん』

「木の葉っぱに…」

『木の葉っぱの所になっている。これ以外ありますか。絵がちがう人』

「ぼく、ちがう」

『どうぞ、ちがう人書いてください。……。この木というのは、これはやし型の木。他の木のなり方書いた人いませんか』

「横田君が今書いている」

「葉は書いたの？上になっているの？」

『これは、やし型は下。これは、上にね。同じ木のなり方でも上になっている。佐藤君の、これは何ですか』

「つるに、こう、スイカのようになっている」

『つるがある人。はい、スイカの人。はい、スイカ型考えた人。四人いますか。すごい。スイカ型はすごい。先生のお友達の有田先生ってね、立派な先生がいるんですけれども、このスイカ型が出てくるクラスは素晴らしいって言っていましたけれども、スイカ型は、この教室で、四人も書いてありますね。はい。一、二、三、四、五、六、七、八通り。もう、終わりですか』

「まだある」

『だいたいね。十通りくらい考えられる。いろいろね。自分がちょっとでもちがったら、ここんとこちがうって書いて。どうぞ、書いてください』

「あー、わかった。まだある。こういうことじゃない。じゃがいも型かなぁ」

『じゃがいも型。いも型。これ木が上になっているのね。地面の中じゃないのね。ぶどう型って書いといてください。これ、中に入っているからじゃがいも型ね』

「いくら何でも、ぶどうはちがうなあ」

「地面をはいつくばっている木」

「かっこいい。それ書いてこいよ」

「先生。お手玉型。木の中かもしれない」

『それじゃあ、ちょっと、そろそろ帰ってきてください。もう一回確かめますよ。木の上になっているという形で、ぶどう型になっている、一番。二番目、木のあいだ、あいだでこういうふうな形になっていく、二番目』

「お手玉型」

『二番目、お手玉型。三番目。地面の中に入っている。つるのようになっている。そこになってゆく。スイカ型。五番目、葉っぱのとこになっていく、上の方の。小久保さん。土からちょっと出てね、葉がたたくさん生い茂るという、田中君、六つ目。上田君ね。地面の中で、じゃがいもがたくさん持っているように、地面の中に、たくさん入っている。じゃがいも型。佐藤君がたくさん、積み重なっている

型です。木の下にこういうふうに、たくさんつながってくるだろうと、十個』

「（番号が）七から九になっちゃっている」

『ん、七、八だ、九だ、ね。先生は、二年に一ぺんくらい間違えます。うふふ。これは、柿みたいに、こうなるってやつだな。加我君の、ね。柿の上のところにのってるんだそうです。十一、はい。で、これとこれとこれ、同じかな』

「上のこっち、木の中になるんだって」

『あっ、そう。じゃ、木の横のところにね。木の横の根っこの上んところに、高い木があって、そのまわりに出る。これ、十二番目。草ぼうぼうの中にね、こうなっている。十三番目。鈴木さんは、木の中になる。木の中に（パイナップルが）なっている。十四番目。やしの実型にこうなってくるという、十五番目。やしの実型の葉っぱに引っ掛かってくるという、十六番目。十六の形が出てきましたね』

（児童自然と拍手）

『さあ、自分はこの中のどれだと思うか、手を挙げてもらいます』

「二つあった場合は？」

『一つだけ手を挙げてもらいます。一番…。二番…一人。三番…一人。四番…二人。五番…三名。六番…八名。七番…なし。九番…一人。十番…なし。十二番、十三番』

「十一番やってない」

『ん、ちょっと待ってね。柿の木型（の十一番）は、一名。木のまわり（の十二番）も〇、木の中にできる…〇。やしの実型…八名。木の葉っぱ型…一。さあ、これはどうなっているかなっていうと…』

「どれにも挙げてない」

『ん、全部ちがう？全部ちがうんだってさ』

「ちがうよ。ちがう」

『十六も考えて、全部ちがうんだってさ』

「全部ちがう」
『そお？そお？』
「八三ページに書いてある」
『どれ見たの？』
「これでみたの」
『えーっ。みんなが使っている、白地図にのってんだってさ』
「あった。そうだったんだ。草ぼうぼう型だ」
『これ、草ぼうぼう型？』
「じゃない。」
「ぼうぼうでない」
『じゃないな。草ぼうぼうじゃない。ちょっとこれだけじゃよくわからない。』
「お皿になってる。葉っぱの皿の上にのってる」
「わかった。こんなになって、こんなになって…」
『この絵だけじゃ、よくわからないので、本当はどうなってんのかを教えたいけれども、教えません。うふふ』

「ずるいよー」
『調べたい人は、調べてらっしゃい。浦滝さんは、とても偉くてね、よくいつも調べて来てくれますけれども。どこ行きゃ調べられますか』
「沖縄にいく」
『沖縄に行けば調べられる。でも、沖縄に行かなくたって調べられるな』
「インドネシア」

『インドネシア行くの？
はい、次、次の問題です。第二問。向山先生、どんな問題出すと思う？』
「(パイナップルの)中味はどうなっているか」

『おー、すげえその通り。さあ、中味の問題だけれども、今日は中味がどうなっているかではなくて、横に輪切りです。ずばっ、ずばっ、と切ったらどうなるか、切り口は。はい、書いてください』
「できた」

「先生、書けた」
『書けた人は、この十六、せっかく出たんだから、それちょっと横に書いときなさい。ノートに書いときなさい』
『じゃ、いいですか。ズバッと切ったらどうなるか、という絵をね。これはねぇ、これは、先生、想像できるんだ』
『水野君、はい、水野君型でちょっとねぇ、先生書きます。こういう形でまずいきますね。これ以外にもあるかもしれません。ま、取りあえずこれからいきます』
「え、真ん中、空洞なの」
『はい。空洞です。自分が書いたやつはどれですか。はい、Aというやつ、Aの形。水野君、そう書いたんでしょ。Aの形。いるはずですよね』
「先生、A、空洞？」
『A、空洞です』
「空洞じゃない、先生、空洞じゃない」
『空洞じゃないですか？じゃ、いいです。じゃ、空洞の人。四人。Bで空洞。五人。これ以外』
「はい」
『はい、横島君』
「真ん中、Aで、真ん中に種がある」
『Aで真ん中に種ね。C』
「種なんかない」
『それは、わからない。はい、C。で、この形で、横島君、種が詰まっているって、こういう感じですね。はい、これに賛成の人。二人。こういう絵じゃないっていう人』
「はい」
『河野君』
「Bで、真ん中に汁がいっぱい」
『真ん中に、何？汁？汁ね』
「やしみたい」
『ドーナッツ型で、真ん中に汁が入っている。はい、これ賛成の人。一人。汁が入っているっていう人。そしたら、はい、もう一人だ』
『はい、高田君』
「一番最初のBに似てるけど、まわりにギザギザがある」

『それはあるんだよ。ギザギサはとったとして、Bとして、皮ね、それは、とったとしよう』
『水野君』
「真ん中に芯」
『どれ、どの形で？』
「Aの形で、真ん中に芯」
『Aの形で、真ん中に芯、というのはどういうんですか』
「堅いの。茎。堅い棒みたいの」
『堅い棒みたいの』
「とうもろこしの芯みたいの。でも食べられるけど」
『あ、とうもろこしの芯みたいね。はい、これに賛成』
「はーい」
「ちょっとちがう」
『待ってな。これに賛成。…。六名。はい、ちがうっていう人』
「はい」
『はい、佐藤君』
「Bの形で真ん中に芯がある」
『Bの形で、真ん中に芯がある、これに賛成の人。四人。他に』
「はい」
『はい、上田君』
「穴とか何もあいてなくて…、何もあいてない」
『うん、そういうのあるかな？はい、ただの丸。これ、賛成。こっちの二人。他に…。はい、伊藤君』
「Aの形に茎。茎がある。茎があるの」
『じゃあ、芯だよな。全部で、六通り。さあ、どれだ。ノートに書きなさい』
『横に切ったらどうなるか、予想、って書いて。七つ意見がでました。さあ、予想を、今度はどれか聞いてみます。予想変わった人もいるでしょう。はい、A意見、賛成の人。…。○になりました。四から○ね』
「缶詰だよ、それ」
『缶詰になっちゃう。うふふ』

「最初から切れてる」
『はい、B。あえて缶詰がそうだと。桃だって、りんごだってそうだ、と。二名。はい、C。これ種が入っているやつね。今のね。D、汁が入っているっていうやつ。スープ、やしの実と同じように。はい、一人。E意見。芯が入っている。三人。はい』
「切れてて芯でしょ」
『切れてなくて芯。十九人。G意見、ぺらぺら。さあ、どうしようかな』
「教えない」
「切る。切る」
『これは、切るのもったいないですから、今度切ります』
「えーっ」
「食べたいな」
『切っちゃおうか…?食べちゃおうか?』
「切っちゃおう」
「食べちゃおう」
『じゃ。さっきの絵とかなんか、高田君に見せてもらって、急いで写しておきなさい』

「しーっ」
「おー」
『固いかな。汁があるかな。汁があったら、ベチャっとこぼれちゃうな。さ、だれの答があってたか。問題。三つに切ったならば、上の方と、真ん中と、下の方と、どれが一番おいしいということを、ちょっと聞いてみます。はい、上だと思う人。真ん中だと思う人。下だと思う人。じゃあ下が多いのね』
「汁がたまるから?」
『お、おっ…』
「固い?」
『ザクッといっちゃったよ』
「芯だな」
「あーっ、見えた。今、あーった。あった!」
『じゃあ、見ます。先生が、見ます。おおーっ。さあ、いきます』
「あー、あったー」
「あった」
「あるよ、うすーく」
「やったー」

「E」「A」「Fだよー」
『これは、難しいよねー』
「FとGの間」
『F・Gの間ぐらいだね。こんなにはっきりと輪っかになっていませんねぇ。でも、なんか芯みたいのがね、似た絵が描いてある。F・Gの間だね。さ、もう一回聞きます。これが一番おいしいと思う人。一番下んとこ、ほとんどの人ね』
「食べて見て、先生」
『はい、真ん中の部分、ここが、おいしいと思う人。二人だ。上だと思う人』
「先生、中が一番甘いと思う」
『じゃ、切ります』
「切る？」
『食べたいんでしょう？』
「食べたいよ」
『食べたくないんですか』
「あー、刃を向けないでー」
「皮は固いからだめだよ」
『どう切りましょうかね』
「先生、給食の果物にしたら」
『（切った後）ひとつずつね。女の子からね。どうぞ、持ってって。はい、いいよ。食べていい。男子、一の側。二の側。三の側。四の側。芯、食べられませんでしたか？みんなに、芯が入るようにしたんですけれど』
「食べちゃった」
「固い」
『芯も食べられますね』
『芯が、少し固いね。はい、じゃあ、感想を一言書きなさい』
「うまい」
『先生、切り方間違ってたなあ』
『はい、書きましたか、感想』
「書いたー」
「ばかうま」

『さあ、社会科で、暖かい地方の暮らしということで、二つ問題を作った。先生、これ（パイナップル）どこから買って来たんでしょうか』

「沖縄」
『沖縄の…』
「那覇」

『この沖縄の那覇からのお土産が、みんなの分あるかなあ。上から順番にとってください。この箱は、チャレランの賞品として、一位をとった時にあげます。はい、問題です。先生は飛行機で行きました。東京・那覇の間は、片方が飛ぶのに、飛行機で二時間半かかって、片方は一時間五十分です。意味、わかりますか。片方は、二時間三十分かかって、片方は一時間五十分です。東京から向こうに行く方が早いんでしょうか、那覇からこちらに来る方が早いんでしょうか、どちらだと思いますか』

「行きが早い」
「行きが遅い」
『はい、東京から那覇に行く、行きの方が早いっていう人。…。十九名。帰り。那覇から東京の方が早いっていう人。…。十三名。ほら、半分半分に分かれましたね』
「先生、この間言ったじゃん」
『そう?』
「南西のほうからさあ、北東の方に行った方が早いって」
『そう、言ったことある?』
「言ったことあるよ。日本列島かいて言ったことあるよ」
『先生、言ったことある。そういう話?よく覚えているなあ』
「覚えてる」
『でも、正しいか、正しく覚えているかどうか…。服部君は、どちらなのかは?』
「行きが早い」
『行きが早い』
「だって、わけもあるよ」
『わけもある。はい、言ってごらん』
「東京の方がちゃんとしているし、那覇ではあまり人が住んでいないから、ちゃんとしてないと思う」
『那覇の方がちゃんとしてないから』

「ちがう、ちがう。那覇ってさあ、離れ小島で…」

『ちょっと待って、今の伊藤君の意見は、東京の方がちゃんとしているから。菅田さん、その意見どう思いますか。日向さん、伊藤君の意見をどう思います。伊藤君、もう一回言って下さい』

「東京の方は、よくなっていて、いいから…」

『設備がいい。那覇はあまり住んでいない。だから、東京から行く方が早い。今の伊藤君の意見に賛成の人』

「待って。はい、沖縄の方は、観光地だから、人が住んでなくても、空港ぐらいはちゃんとしてあると思う」

「はい。地球が…、東京があって、こちらが沖縄だとしたら、地球がこう回っているんだから…」

『えっ、何？』（子どもの意見に教師びっくり）

「地球がここにあって、沖縄がここにあって…」

『はい、そこまでの意見に対し、北野君、どう思いますか。そうやって、発表するときは、一番聞きたくない人に対して言って下さいね。はい』

「ここに東京があって…」

『日向さん、なんか、聞きたくないって、そんな話は』（聞いてない子を教師がとりあげる）

「日向さん、聞いてください」

（発言者が注意する）

「はい」

「橋本さん、聞いてください」

『はい、そうだね』

「後ろ向けよ」

『橋本さん、聞いてくださいって。はい、いいよ、言って』

「ここに東京があって、ここに沖縄があったとしたら、地球がこう回っているんだから、飛行機がこうなって、こんなふうになっているぶんだけ、スピードが速いようになっていると…」

『どうなるかな。これ、次の問題であります。はい、今日これで終わります』

第一は、「発問というのは、子どもたちから10以上の意見が出るようなのが望ましい」という考えです。この意見は私と有田氏は同じでした。
第二は、「パイナップルの実のつき方は？」という発問をするとクラスで反応がちがう。「スイカ型」まで出るクラスは、よく意見をいうクラスだというものです。有田氏は、全国各地で招かれ授業をしていますが、その実践でしょう。
第三は、「子どもに教えないから、子どもは自分で追求するのだ。」という意見です。有田学級の子どもは、「追求の鬼」といわれるほどよく「追求」しますが、その秘訣はこれらしいのです。

ここで私は、梨岡先生や光明先生や大場先生や若い先生がたから注文されたことを思い出しました。
それは、次のことです。

> 向山さんの研究授業では、向山さんの発言を3回ぐらいにしぼってみて下さい。
> 「はじめ」と「なか」と「おわり」の3回です。

ご期待に沿えるか分りませんが、一応努力してみることを約束しました。

3　さて、教室に「やしの実」を持ち込みました。
社会科のノートの新しいページを開かせました。
私は、次のように問いました。

> これはやしの実です。昔、島崎藤村という詩人が次の詩を作りました。ついたところは渥美半島ですが、「名も知らぬ遠き島」とはどこでしょうね。

子どもたちは、地図帳を開いて次々に言います。「流れてきた」のだから海流にのってきたんだ―などとも言います。
「沖縄」「フィリピン」、次々と名前が出てきます。
そして、私は、次の問いにうつりました。

<つづく>

社会科研究覚え書き(1)

1989.12.4.
四年 向山洋一

1 先週、沖縄に行ってきました。九州地区社会科研究大会に出席するためです。公開授業を参観しながら、ふと思いました。

「そうだ！　私も研究授業をしなくてはならない」

予定では2月です。すると単元は「さまざまな土地のくらし」ということになります。

教科書では、沖縄、高知、根室、十日町、利根川などがとりあげられています。「私は今、沖縄にいるのだ。これを利用しない手はない」そう思いました。そう思うと逆上して、とりあえず「やしの実」と「パイナップル」を購入しました。

昨年の大場先生の研究授業の時にも言ったのですが、「教材研究はブツを用意する」というのが大きなポイントと思っていますから、沖縄にいる間にブツをと思ってしまったのです。

公開発表の会場校は、首里城のすぐとなり、「守礼の門」まで100メートルの近さなのですが、私は「守礼の門」を見ることもなく「やしの実」と「パイナップル」だけを確保した寂しい沖縄の夜でした。

2 さて、学校に出て、「実物のやしの実、パイナップル」の登場を学年の先生方に説明しました。

展覧会の準備の忙しい中、ふってわいたような「やしの実」と「パイナップル」の出現ですが、学年の先生方はすぐ理解して協力してくれました。

「やしの実」と「パイナップル」は、なまものです。放っておいてはくさります。

すぐに授業を始めなくてはなりません。

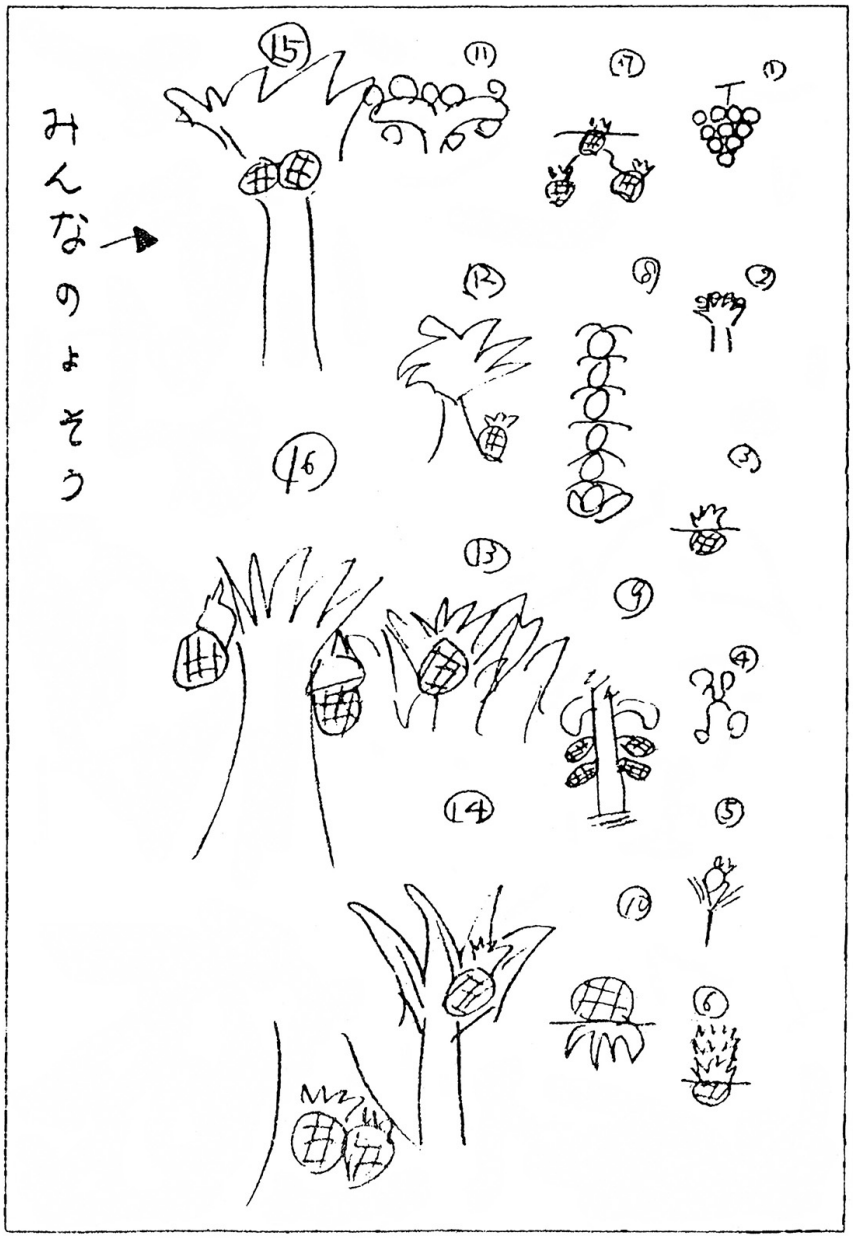
私は、沖縄からの帰り、修学旅行で一緒だった筑波大付属小学校の有田和正氏との会話を思い出しました。

「先生、パイナップル畑の写真が作文帳に載ってまーす」

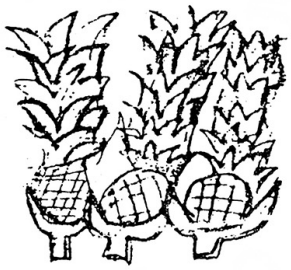
私は、今度はあゆてました。「やし」の次には、「パイナップル」があったけど、「パイナップル」の後は、用意していません。

私は、いそいで作文帳をしまわせました。見っともないことになりましたが、しかたありません。

6 さて、子どもたちの予想は、図の通りです。ここで大切なのは、さまざまな予想をさせるということです。有田先生の言われた「10個以上」は出てきました。スイカ型もしっかり入っています。



これで終っては、むろん「社会科」にはなりません。この後、一つ二つの助走をして本論に入ることになります。



↑授業の後、子どもが調べてきた絵。

社会科研究 覚え書き(2)

1990.1.23
四年 向山洋一

4 前号から1ヶ月もたってNO2の登場です。ここらへんのところが私らしいところです。

私は「やしの実」の詩を書かせた後、次のように問いました。

> やしの実は、どのようになっていると思いますか？
> 想像して絵を書きなさい。

これは、ポイントともいうべき発問です。ここが山場なのです。いろいろな考えが出されるはずなのです。

私が発問を言い終えるやいなや、あの元気・活発で有名な康大君が立ちあがってしゃべり始めました。

「先生、ぼく知っている。インドネシアにいたとき現地の人にとってもらったことがある…」

康大君は、インドネシアでゴリラと遊んでいたのです。ついでいうと森本美枝さんもインドネシアで幼稚園をすごしました。しかも康大君と同クラスです。会社もちがうのに…、日本も国際的になったものです。

康大君は、あっけにとられるみんなをよそに、一人元気にしゃべり続けます。前に出てきて、絵まで書き出しました。

5 当然、私の予定は大きく崩れました。私は内心、どうしようかと思っています。しかし顔はニッコリ笑って「康大君ありがとう。とっても分りやすくて助かったよ」などとほめました。

ここはしかたがありません。「やし」と「パイナップル」を入れかえるほかはないのです。幸い、「沖縄から「パイナップル」も購入してきます。「パイナップル」はどうなっているか、ノートに書かせようとしたとき、一人の子どもが叫びました。

NO.1

パイナップルとやしのみ

小室　聡子

先生が沖縄に行って パイナップルを買って来てくれた。

そして、先生がみんなにある問題を出した。

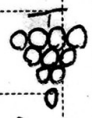
「パイナップルはどのようになっているかな？」と言うような問題でした。

その後すぐ先生は、

「黒板に自分の想像の絵を書きなさい。」と言ったとき、だい部分の人は黒板に書きヨした。

●4年児童作文「パイナップルとやしの実」1989年、雪谷小学校　向山実物資料 A13-12-01-12

①



ぶどうみたいになっている。

②

木の間々になっている。

③

土の中で、半分だけそとにでてなっている。

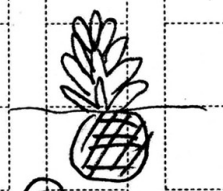
④

すいかのようになっている。

⑤

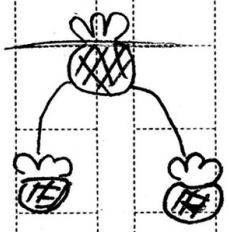
木の間になっている。

⑥



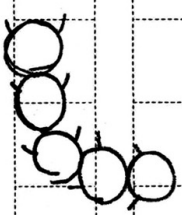
③のちょと変化したようになっている。

⑦



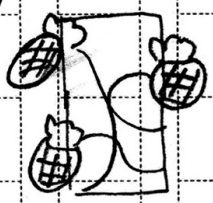
じゃがいもみたいになっている。

⑧



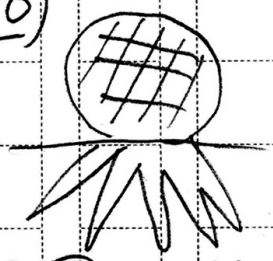
いもむしみたいになっている。

⑨



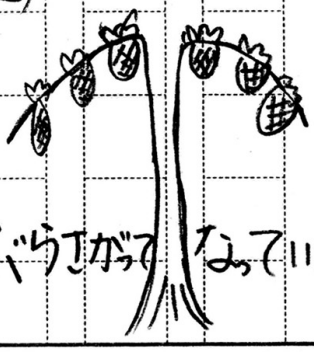
ちくみたいになっている。

⑩



③⑥の反対になっている。

⑪

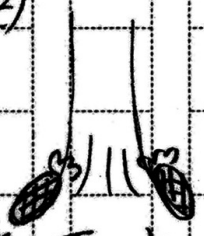


ぶらさがってなっている。

コクヨ ケー10 20×20

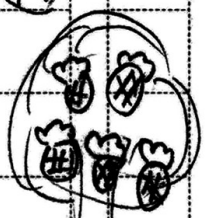
No.2

⑫



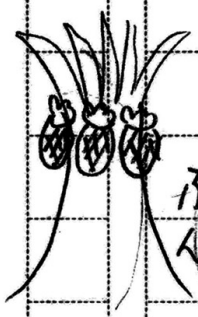
木の下の方になっている。

⑬



りんごみたいになっている。

⑭



ぶらがるようなかんじでなっている。

⑮

木の上の方にくっついているようなかんじでなっている。

自分の予想

私は、⑥のようになっていると思いました。

正かい

⑥でした。

あってよかったと思いました。

次にまた先生が問題を出しました。

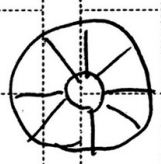
「今度は、中身はどうなっているかな？」

A〜Fの中から選んでノートに予想の記号を書きなさい。」と言いました。

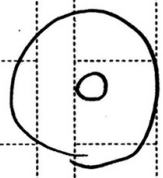
自分の予想

私の予想は、Fでした。

C



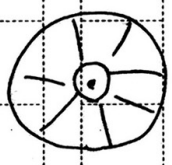
F



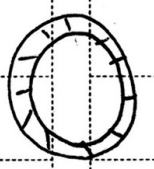
正かい

正かいは、Cでした。

B

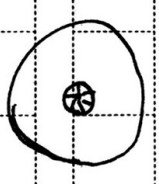


E

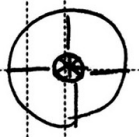


まちがっていたので、ごんねんだと思いました。

A



D



コクヨ　ケー10　20×20

4年　社会　「やしの実」

向山／島崎藤村「名も知らぬ遠き島より流れ寄るやしの実ひとつ」
　これ日本だと思いますね。地図帳を開いて愛知県，（間）・・・愛知県を，２３ページですかね。渥美半島と思われます。・・・愛知県渥美半島，そこにやしの実がやしの実がひとつ流れてきたんだという，そういう歌なんですけれどもね。じゃあ，名も知らぬ遠き島というのはどこらへんでしょうか。
児童／南の島。
向山／どこらへんでしょうか。
児童／南の島。
向山／あるいはどういう方の島でしょうか。ノートに書いてください。
向山／どういう方だ。はい。
児童／ハワイ。
向山／うんどうでもいい。ハワイという書き方でもいいです。あるいは，南の島というねそういうのでもいいです。（間）・・・さぁ，どこらへんですかねぇ。そうすると今度は１ページの，１ページの日本地図をみてくれるかなぁ。渥美半島のところ，名も知らぬ遠き島より，どーこらへんからきたんだろうね。（間）・・・海にも流れがあるからね。海の流れ，川みたいに流れているからね，流れも書いておいてよ。（間）・・・（この間子どものつぶやきあり。）はい，それじゃぁ，誰でもいいですけどどういう島か，どっちの方か意見のある人立って言ってみてください。どうぞ。
児童／沖縄。・・沖縄（複数）
向山／うーん。（不明）でもいいですよ。
　こういう理由でこうだとかね。なければないでいいですよ。はい，どうぞ。
児童／名も知らぬというのだから，あんまり人には知られていない島。
向山／なるほど。
児童／竜神嶠。南の島の。
向山／もっと大きい声ではっきり言ってね。なるほど，はい。
児童／アメリカ信託統治領太平洋諸島。
向山／なるほど。はい，北から来たって人いない？
児童／いない。やしって，あたたかい・・・。（複数の児童のつぶやき）寒流に流れて来たってさぁ，寒流に交わって・・・
向山／ヤシキ君何。・・・（不明）何。
児童／寒流の方から来たとしても，暖流に交わってまた北の方行っちゃうから。
向山／また北行っちゃうから，来ないだろう。流れて来ない。それから，山田君は，やしは何だって。
児童／南の国へ・・・
向山／南の国へ行く。はい。それでね，どこから流れてきたかは先生もわからないです。作った人もわからないですね。でも，やしの実ってのはあります。やしの実知ってる？
児童／食べたことある。
向山／ある？！
児童／インドネシアで。
向山／インドネシアで！じゃぁ，あったかいところだ。コウタ君どうだった。
児童コ／あのね，えーとなんだかね，木の上に実がいっぱいなっててね，それをね何だかインドネシアのねぇ，原住民がねぇ，いっつも木にのぼってとってる。まるでね，あのふつうの上のところに穴あけてねぇ ―――
向山／ちょっとそこまで，ストップ。
　丸かったですか，四角かったですか。
児童コ／丸かった。
向山／じゃぁ，そこまで。やしの実ね，丸かった。

向山洋一授業実践シリーズ№２（社会科）

「やしの実」

授業者：向山洋一

テープ起こし担当：大浦伸二

向山／さぁ，見せてあげます。中身。
先生切ってきました。色，でも，もったいないから見せるのやめよう。もったいないなぁ。ちょっと見せるのもったいないなぁ。どうしようかなぁ。ちょっとうしろへ下がっておいて。みせたくないなぁ。はい，中がどうなっているかこっからこう通過していってね。1の川から，はい，いらっしゃい。3の川・・・4の川・・・
（おもしろいよ。よけいなこというなよ。やはり。おいしそう。やっぱり。）
さぁ，何色でした。
児童／黄色のにごったような。
児童／とうめいぼくってちょっと黄色がついている・・・
向山／そんな感じだね。
はい次，この汁の味。味ったってむずかしいから，やしの実の味はたとえはどんな味に近いかって書いてください。あるいは何と何を混ぜたような味だとか。
児童／味～？にがっぽい。
向山／にがっぽいならにがっぽい。みんな想像です。
児童／何といえばいいのかなぁ。たとえば・・・・
児童／たとえばコーラ。
向山／はい，たとえばコーラ。
児童／えっ。コーラ？炭酸入ってる。
向山／聞いていきます。はい，ここから，アオキさん。
児童／レモン
向山／レモン，はい。
児童／少しにがい。
向山／少しにがい。
児童／さとう
向山／さとう
児童／メロン
向山／メロンみたいな味，なるほど。はいこの列，イシイさん。
児童／不明
向山／甘ったるい。ヨシダさん。
児童／不明
向山／パイナップルみたいだと思う。はい，
児童／レモンと・・・
向山／レモンと？
児童／さとう
向山／さとう。オオクボさん。
児童／水とさとう
向山／水とさとうみたい。オザワさん。
児童／不明
向山／えっ，さとう？セガワさん。
児童／不明
向山／変な味。（笑い）
児童／ちょっと甘くてちょっと苦い。
向山／ちょっと甘くてちょっと苦い。
児童／さとう
向山／さとうみたい。他に，想像ですから。はいヨコヤマくん。
児童／単なる水
向山／単なる水
児童／しょっぱい味
向山／しょっぱい味，なるほどユニークだ。
児童／ちょっとさとうを混ぜた味。
向山／味，ミズシマ君・・・他に？ハギワラ君
児童／甘酸っぱい。

向山／先生，先生，先生昨日持ってきました。（えーっ）
児童／小さい
向山／それでねぇ，こういう丸い物だったんですけど，コウタ君だまっててね。こう切り取りました。はい，こう切り取りました。こう切り取りました。はぁい。・・・（間）さぁて，これでね，・・・（間）これ切り取ったらまあるいですけどね，この大きいまぁるい，こんな大きいものです。そこで，第一問です。この実は木にどういうふうになってんでしょうか，想像して書きなさい。さぁ，どうなっているのでしょうか想像して書きなさい。・・・絵で，はい。
児童／木，どうでもいいの？
向山／はい。
児童／あっ，笑った先生。
向山／さぁっ・・・
児童／笑われたおおざっぱすぎて。・・・（間）できた。
向山／これはね，ヨコヤマ君かいてみて。それから，アベ君，イマムラ君・・・かいて。
（間）・・・
向山／前に二人かいてもらいましたけど，これと違うのありますか。
児童／根っこにはえてる。
向山／ねぇ。根っこにはえてる・・・これは，見た人がいるそうですので，ね，どういうなり方をしていますか。
児童コ／アオキさんのように，実が上になっていて，木の葉っぱが出る根元からでてる。
向山／葉っぱが出る根元からでてるんだそうですね。
高さどのくらいありました。
児童コ／だいたい四〜五メートルは。
向山／すごい，高あい。どうするんですか。これ？
児童コ／登っていくの，あの裸足になって。
児童／テレビで見てて，サルかっててサルに落としてもらうの。
児童コ／そうそう。
向山／じゃぁ，これがこれが一問でした。
次二問。この実の中はどうなっていますか。絵をかいてください。
児童／実の中に実が入っている。
（間）
向山／小林さんかいてください。
（つぶやき多数。種の中に種が入っている。かきたいなぁ・・・種がこれなんだ・・）
向山／水分，水。（ジュースみたい）これにかいてある他にいませんか。これ以外，これ以外。（ちょっとちがう ――口々に）じゃあ，ちょっと違う人でてきてかきなさい。
児童コ／あつい皮で，ここがこう実になっていて・・・黄色にぬろう，ジュース・・・。
向山／これぐらいですか。じゃあ，自分がかいた絵とくらべてどうでしょうかね。
はい，この汁はどんな，どういうかんじの汁だと思いますか。
児童コ／甘ったらしい
向山／いや，色です。
児童／赤
向山／赤色。
児童／黄色と白と混ぜたような色。
向山／黄色と白と混ぜたような色。
児童／とうめい。
向山／何色。
児童／オレンジ
向山／オレンジ色の色。
児童／灰色っぽい。
児童／とうめいのにごったような感じ。
向山／色を書いてください。
児童／オレンジ・・・

んで下さい。（多数にぎやか）
向山／はい，はい，再度挑戦で，今度はスーッと取っていいですから，取りたい人は並び
なさい。・・・（間）
向山／はいっ，もう少し残っていますので，再度って人どうぞ。
もう，もう終わりますよ。・・・
向山／はい，じゃこれを飲んで思ったことを書きなさい。
（間）
向山／まず，味はどんな味だったですか。
児童／とうもろこしみたい。
児童／何にも例えられないよ。（他口々に）
児童コ／先生，ちょっと早すぎるわ，これ。
向山／何が？
児童コ／えっ，あのーとるのが。
向山／取るのが早すぎる。おーっ，コウタ君，専門家，インドネシア。
児童／ヒューヒュー！
児童コ／僕はねえ，いつも飲むやつはね，あのーいつもインドネシアのね，あれー，原住
民に教えてもらうから，あのね・・・不明・・・それで，あと二日もすれば大丈夫
でね・・・不明・・・。
向山／オノさん，もとインドネシア。オノさんだってもとインドネシアにいたんですね。
オノさんは？
児童／・・・
向山／飲んでなかった？どうだった？
児童／お母さんやってくれてたからわかんない。
向山／お母さんやってくれてたからわかんなかった。はい，じゃあ，他の人はどんな味た
った？
児童／気持ち悪いー他口々に言う
向山／はい，思ったこと考えたことを書いて言ってください。誰でもいいです。どうぞ。
児童／異様な味。
向山／誰でもいいからどうぞ。
児童／ゲボをはきそうな味（笑い）
児童／でも，あれゲボってすっぱいよ。
児童／すっぱくないよ。
児童／すっぺーよ。
児童／やっぱり最後になるとこれぐらいだってやっぱりすっぱくなっちゃう。
向山／そして，パイナップルの最後の問題です。・・・やしの実の最後の問題です。や
の実の最後の問題です。やしの実がありますけれど，これをこれはね，生えてるそ
いう国ではどういうような利用の仕方を，どのようにこのようなことをねやっちゃ
てるのでしょうか。書いてごらんなさい。やしの実をどのように・・・子どもの声
不明・・・ストップ，コウタ君だまりなさい。やしの実をどのようにこれをね，見
ましたこれです。どんなような利用の仕方をね，使い方を・・・
児童／それにもうちょっと甘さを加えてジュースにするのだ。
向山／たとえば，そういう書き方とかね。はい，箇条書きに書いてごらんなさい。
児童／ただの二つだけ・・・
向山／はい，ふたつだけね。それは一つの人よりかすごい。二つも書けたなんてすごい，
児童／三つも書けた。
向山／三つも書けた！すごい，もっとすごい。
児童／四つも書ける。
向山／四つも書ける！
これをどのようにね，切るのか。
児童／三つあるよ。
向山／三つもあるなんてすごい。
児童／四つもある。

向山／甘酸っぱい。カワムラ君
児童／不明（笑い）
向山／何々，もういっかい言って。
児童／梅干しと，
向山／梅干しと，
児童／はちみつと，
向山／はちみつと，
児童／不明
向山／白い・・不明（笑い）
児童／お茶とさとう
向山／お茶とさとうみたいなの。
児童／不明
向山／えーっ？もう一回，わかんない。
児童／サイダーの炭酸をうめたのとオレンジ
向山／オレンジを・・・不明
児童／あついお湯，お湯とさとう。
向山／はい。
児童／あついよ，それ。
児童／甘っぽい
向山／甘っぽい
　　それでは，どういう味なのかみんなを代表して先生だけが味を味わってみます。
児童／エーッ（口々に・・・）
向山／みんなを代表しまして，
児童／まずいよ，
児童／おいしいよ。
向山／なーるほどー！
児童／どういう味？
向山／ないしょ。・・・自分で味わってみたい人は後ろから給食用のストローを持って，
　　・・・　はい，一列に並びなさい。・・・一列に，一列に並びなさい。・・・
　　それではね，今ストローを取りに行った時にちゃんとね，後ろまでみんなが取るのを待ってて後ろに行った人がいますから，並んだ順の逆からいきます。はい，後ろ側から行きなさい。
児童／いいよ。
児童／ヤッホー
向山／全員回れー右。・・・ちょっとだけだよ。
向山／あのねぇ・・・あのねぇ，入れてほんのちょっとだけ入れて，こういう風にやればね，入ってますから。・・・わかった？取り方わかった？取り方わかった？シューっと入れてこういう風にやればつきますから，それでやってください。はい。・・・上をおさえて，こうじゃない，こうじゃない，そうじゃないよ。入れてここをこうおさえる。こうおさえなくちゃいけない。はい。手をはなして。口の中入れちゃって。・・・手をはなしてごらん，そうそうそう。下の方・・・あの，手はなしといて入れてこうだよ。あのねぇ，みんなこんなやり方じゃとれませんよ。それから，こういう風にやってもとれませんよ。当てて，入れて，そしてふたをする。こう出せば取れるんですよ。（間）
児童／おいしい。・・・甘い・・・うまい。
向山／あのね，あのねぇ，ちょっともう一回。今の，最初から・・・不明・・・な人いるから。こう，おさえたまま入れちゃうとここは空気が入ってますから，あのージュース入ってきませんよ。それから今度は逆にここははなしたまま入れちゃって，はなしたまま入れちゃって，こう取ろうたって，ヨシダさんやってますがこれ，何にもなりませんよ。はなして入れると，汁がこのまま来るんですね。そして，ふたをするんです。指で。そうすると，ここにある，このまま取り出せるんです。・・・取り方が上手だった人半分ぐらいしかいませんよ。もう一度やってみたいという人，どうぞなら

児童／うそーっ？
向山／あぁっ，出た人でもいいよ。
児童／なぁんだ・・・
向山／先生はそういう風に言ってるんじゃない。前に書いてないのがあったら書きなさい
児童／ほらぁー。
向山／はい，もう終わりにします。・・・もう終わりにします，はい・・・はい・・・
　　じゃぁ，十一こまでいきました。その続きいきます。はい，カトウ君。
児童／から，からから植木ばち。
向山／植木ばち，はい十二こ目はい，次これ。
児童／勉強に使う。
向山／勉強？
児童／今，先生が持ってきたみたいに・・・
向山／あぁ，教材ね。教材に使う。はい，十三。スズキ君
児童／かざりに使う
向山／あぁ，これをかざりにする，十四，中をかざり。はい，アオキさん
児童／中だけ・・・不明・・・ジャムにする。
向山／ジャムにする。なるほど十五。タムラさん。
児童／まくら
向山／まくらにする，十六。コウノさん。
児童／おなべにする。
向山／おなべにする，十七。それから，これだれだろう？
児童／薬にする。
向山／薬になる，なるかなぁ？わかんないけどはい，十八。次これ，
児童／スープのだし
向山／スープのだし，十九。
児童／プリンにする。
向山／だれこれ？どうしたプリン？ミズシマ君プリン。
児童／だから，汁をかためて・・・
向山／プリンに。なぁるほどねぇ，二十。はいイシハラ君
児童／水をとって，それで吹いて笛にする。
向山／笛にする，二十一。他にイシイさん。
児童／お面にする。
向山／お面にする，二十二。あとは？・・・それ以外，まだあるの？二十二以外。すごい
　　なぁ！はい，ちょっと聞いていこう。はい，オザワさん。
児童／酒　――― チャイム ―――
向山／あぁっ，酒にする。二十四，コバヤシさん。
児童／中の実をとって，固めてお菓子の・・・不明
向山／お菓子にする，はい二十五，はいヤマザキさん。
児童／やしの実のまわりなどをとって，子どもの遊び道具。
向山／遊び道具，おもちゃ，二十六。はい，オオダイラ君
児童／ラクビーの形だからラクビーにした方がいい。
向山／ラクビーにする，はいセガワさん，二十七。
児童／・・・で彫刻にする・・・不明
向山／彫刻刀で彫刻をする，二十八。ホカムラさん。
児童／けずったりしてスプーンにする。
向山／スプーン，二十九。はい，フサワ君
児童／武器にする。
向山／武器。はい，ヒロオカ君，三十。
児童／スタンプ
向山／三十，スタンプ。はい，次三十一，ミズシマ君
児童／はりこ
向山／はりこ，三十二，はい，イワモト君。

向山／四つもある！
児童／あっ，四つだ四つ。
向山／もっとあるかも知れないね。
児童／手にはめてボクシングにする。（笑い）
（間）
向山／ねっ，ヨコヤマ君一番最初に書いたの何だったけ？何を混ぜて何？
児童／あのね，あの味にね，もうちょっと砂糖をまぜて，甘くしてジュースにする。
向山／もうちょっと砂糖をまぜて，ねー，砂糖を混ぜてジュースにする，すごいね。すごいいい。例えばそういういろんな味に・・・
向山／さぁ，これはこのやしの実を利用する，しているね，そういう人々と五年二組との頭の競争ですから。（間）いくつ書いたかな？ひとつっていう人・・・0。二つ・・・五人，三つ，すごい六人。四つ，うわーすごい四つも書いた，八人。五つ，おー，五つも書いた，八人。六つ，それ以上？これはない。・・・
大体どういう風に考えられますか？というとね，基準はまぁ，十個ぐらい。言いたい？言いたい？（うん）言いたい？（うん）言いたいけど言わしてあげない。（いじわるー）（間）それじゃぁ，どうしましょうかねぇ，どうしても言いたい？どうしても言いたい人は出てきて一つだけ書きなさい・・・。
おーっ，すごい，すごい発想。名前書いといてね。自分の名前ね。ちょっと待ってて，もう，もう出てこないで。いっぱいすぎる。十何人も・・・
もう終わり，もう，もう・・・。はい，では，工夫して書いた人ね，説明してください。はい。
児童／あなの所を皮でふさいで，ボールにする。
向山／ボールにする。なぁるほど，はい。イマムラ君
児童／えーと，この中の実の部分を取ってせっけんにする。
向山／なぁるほど，これ二つ目。はいタムラさん。
児童／はしみたいなのでたたくと太鼓になる。
向山／太鼓になる。すごい。キドさん
児童／やしの実のせんいを取って・・・不明
向山／すごい。四つ目。ツジコウタ君
児童コ／ごはんにいっぱい焼いたりして，この実を。それであのジャージャー焼いて，それを空揚げにしたりして，
向山／まぜごはんにして混ぜる。ごはんの具だ。すごーい！カトウさん。
児童／中身を切り抜いてうつわにする。
向山／うつわにする，すごい。六，イシイさん。
児童／中だけとって花瓶にする。
向山／花瓶にする，なるほど七つ目。はい，カワムラ君
児童／まわりの皮をけずって形にして、コップにする。
向山／コップにする，はい，八。アベ君
児童／無人島の人の食料。
向山／どういう風に使うの？
児童／どういう風にしてわったりするのかわからない。
向山／わからないけど，食料。九つ目。はい，
児童／水筒に使う。
向山／水筒オオダイラ君，十。コバヤシ君
児童／とっくり
向山／とっくりってお酒飲むときの。お酒飲むときの，先生うれしいなぁ，十一こも出ちゃったすごい。
児童／まだ，ある。
向山／ここにまだ書いてないって人，消さないで書いてください。・・・消しちゃだめです。
児童／出てない人だよ。
向山／出てないんだよ。

児童／えーっ，五十までいこう。五十まで。
向山／すごいなぁ。
児童／まだまだまだ・・・まだ。
向山／はい，こんだけ沢山みんなはこう使える。実際，実際どう使っているか，（間）
それは教えません。
児童／ごみ箱だぁ。
向山／はい。これ，何調べたらわかるかねぇ。ねぇ，これみんなの中で興味ある人はこれは本当にどうか，そうなのか調べられる範囲で，全部じゃなくていいですから，調べてみてください。はい，じゃぁ，終わります。

１９８９年１１月２４日（金）
雪谷小学校４年２組で社会科の授業「各地のくらし」の一時間目です。

児童／サルのえさ。
向山／サルのえさ，三十三，はい。
児童／皮を固めて家を作る。
向山／家を作る。あっ，これで家を作る。はい，三十四コバヤシ君
児童／植木ばち
向山／植木ばちはさっき出た。カトウ君
児童／すりつぶして粉にする。
向山／粉にしてどうするんだ？
児童／粉料理に使う。
向山／粉料理に使う，粉料理。三十五，はいハシザワ君
児童／えーと，実の繊維をとって洋服がけにする。
向山／あぁ，洋服がけにする。三十六，はい，
児童／その繊維をとってクッキーにする。
向山／その繊維をとってクッキーにする。さっきお菓子出てきたな，三十七、はいカワムラ君
児童／けずってねお皿にする。
向山／皿にする。そりゃ，さっき出た。
児童／いたずらにする・・・上にひもつけて下にドカン・・・
向山／ドカンと落っこちてくる。
児童／バケツ！
向山／バケツ！三十八，はい
児童／ヘルメット
向山／ヘルメット。三十九，はいコウノさん
児童／フォーク
向山／フォーク？さっきスプーンとフォークね，いっしょにしましょう。他に？はい
児童／やしの実で，やしの実合戦
向山／そりゃぁ、遊び道具，遊び道具にしましょう。はい，
児童／・・・洋服にする。
向山／洋服，さっき繊維が出ましたね。洋服にする，はい，
児童／一般的なんだけど水。水代わりに・・・
向山／ジュースでいいですね。さっき，ジュースがね，出たところ。じゃぁ，水代わりにする。えー，四十一。はい，
児童／ごみ箱。
向山／ごみ箱，はい，はい。
児童／お皿
向山／出ました。はい，
児童／イス
向山／イス，これで。家具を作る。はい，これで家具を作るにしときますね。家具四十三
児童／中の実を食う。
向山／えっ，えっ？
児童／中の実を食う。
向山／中の実を食う。実を食う，実を食べる，実を食べる，はい。
児童／真っ二つにしてげたみたいにする。
向山／えっ？
児童／げたみたいにする。
向山／げたみたいにする，はきもの，四十四，はい。
児童／・・・やしの実が落っこちてくるまんがを書く。
向山／材料になりますね，それはね。はい。
児童／つぼにする。
向山／つぼ，それ入れ物だな。さっき出てたな，それに近いのが，バケツ，入れ物，はい
児童／やしの実の表で絵を書いて・・・
向山／さっき彫刻その他で出ましたね。他に？四十五。四十四で終わり。

解説

授業名人による授業名人の授業の「追試」の鮮やかさ

井上　好文

「パイナップル」の授業は楽しい。

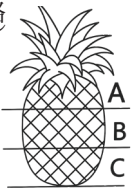
小学生だけでなく、中学生も熱中する。

先行実践は、有田和正氏。

本実践は、有田氏の「追試」である。

有田氏の「パイナップル」の授業の主な発問は次のとおり。

> 発問1 これは、何だか知っていますか。
> 発問2 パイナップルの実は、どんなかっこうでついていますか。絵をかきなさい。
> 発問3 パイナップルの実を真横に切ると、切り口はどんな形になっていますか。切り口の絵をかきなさい。
> 発問4 パイナップルは、A、B、Cのどこが一番おいしいでしょう。（以下略）



1989年11月、向山洋一氏は九州小学校社会科研究協議会の講師として沖縄を訪れた。当時の勤務校であった雪谷小学校4年生の子どもたちへのお土産が「やしの実」と「パイナップル」であった。

帰京した翌日、向山氏は「やしの実」を使った授業する。「パイナップル」の授業は、「やしの実」の授業の続きである。

向山氏の主な発問は次のとおり。

> 発問1 何ですか。
> 発問2 第一問は何と聞いたらいいですか。
> 発問3 第二問。向山先生、どんな問題出すと思う？
> 発問4 問題。三つに切ったならば、上の方と、真ん中の、下の方と、どれが一番おいしいということを、ちょっと聞いてみます。（以下略）

ここまでの組み立ては、有田氏の「パイナップル」の授業と同じであることがわかる。

私たちは、向山氏の「追試」授業から、何を学ぶことができるのか。

一　イッキに授業に巻き込む

授業研究とは「モノ」を教室に持ち込むことである。

「みんなとお勉強したくてですね。高いお金を出して先生買ってきた」

「え―っ、なに、なに？」

（箱を開けて取り出す音）

「お―っ！」

> 発問1 何ですか。

「パイナップル」

社会科で「モノ」を教室に持ち込むのは、基本中の基本だ。

だが、それだけでは名人の授業には遠い。

核心に切り込む鮮やかな組み立て。

語り。間（ま）。じらし。

向山氏の授業音声からは、子どもたちをイッキに授業に巻き込むための様々なノウハウを学び取ることができる。

二　自己学習力を高める手だて

向山氏が子どもたちに尋ねる。

> 発問2 第一問は何と聞いたらいいですか。

加藤雅之君（本冊子4ページの文字起こしでは、「佐藤君」）が、すかさず答える。

「どういうふうに（パイナップルの実のつき方

は）なっているか」
「それを、どうしたら良いですか」
「絵にかく」
なぜ、加藤君は答えることができたのか。
向山学級の子どもたちは前時に、

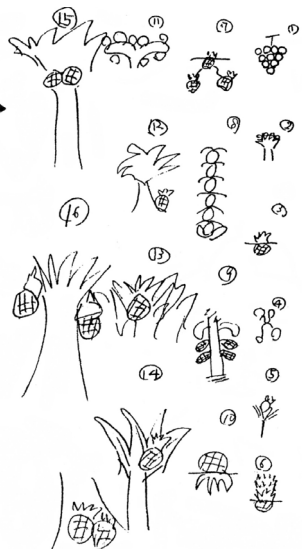
> やしの実はどのようになっていると思いますか。想像して絵をかきなさい。

という学習を体験しているからである。
子どもたちは、「やしの実」の学習と同じように、学習を進めればよい。
「やしの実」から「パイナップル」に変化しているけれども、学習方法は同じである。
変化させて繰り返すことで、見通しをもって授業に臨みつつ、自己学習力の基本となる学習技能を身に着けさせることができる。

三　多様な意見を引き出す手立て

多様な意見が出てくる授業は知的だ。
パイナップルの実のつき方について、向山学級の子どもたちは、なんと16とおりもの意見を出している。

「調べてみたい人は、見に来ていいです」
「自分が、そう思うのでいいよ。自分の想像でいいからね」



「何種類、かいてもいいです」
「自分の名前も書いときなさいね」
「絵が違う人」
「これはやし型の木」
「スイカ型考えた人。４人いますか。すごい」

まず、ノートに絵をかかせる。それから板書させる。そして、子どもの考えを類型化してまとめている。
多様な意見を引き出すための向山氏の手立ても見事だ。

四　「教えない」から「追求」する

向山氏の発問３、発問４は、次のように言い換えることができる。

> 発問３ パイナップルの実を真横に切ると、切り口はどんな形になっていますか。切り口の絵をかきなさい。
> 発問４ パイナップルは、Ａ、Ｂ、Ｃのどこが一番おいしいでしょう。

有田学級の子どもは「追及の鬼」と呼ばれるほど「追及」する。

> 子どもに教えないから、子どもたちは自分で追及する

と有田氏はいう。
向山学級の子どもたちも、有田学級の子どもたちと同じように「追及の鬼」である。
有田氏と同じように大切なことは教えない。だから、子どもたちは追求する。
あの「雪国のくらし」で圧巻ともいえる討論をしたのは、この子どもたちである。
どのような授業を重ねれば、あのような討論が生まれるのか。
それらのヒントが、この「パイナップル」の授業にはいくつも隠されている。

教育新宝島

7月特典 No.20 ｜ 2025年7月

向山洋一 教育資料

1989.11.28 「パイナップル」の授業

教材研究とはモノを準備することである

特典音声①「パイナップル」の授業

https://vimeo.com/1091719594/44e30990a8

特典音声②「やしの実」の授業

https://vimeo.com/1091720619/e1f4563fec

発行日　2025年7月4日

発行所　向山洋一教育技術研究所

所在地　〒142-0064 東京都品川区旗の台2丁目4番12号

谷和樹の教育新宝島
https://shintakarajima.jp

向山洋一公式ウェブサイト
https://mukoyamayoichi.com

このPDFは、プリンタの「冊子印刷」を選択すると冊子になります。
他人への譲渡および個人研究以外の目的で使用することを禁じます。